

中国語の未来表現とそれに対応する日本語表現

—「要」「快」「就」「回头」「将来」を対象に—

林 箴*

要 旨

テンスは人の言葉における一つの重要な文法カテゴリーであり、各種の言語は違った形式でこの文法カテゴリーを表す。中国語はテンスを持っていない言語であり、テンスに代わって「時」の表現を担っている形式が多い。本稿は中国語の未来表現「要」「快」「就」「回头」「将来」を考察対象とし、それぞれの表現がどのような日本語に対応しているのかを明らかにした。本考察で、中日未来表現は時間副詞の使用に似ていることが分かった。また、中日未来表現が以下の三点において違っていることも分かった。まず、日本語はアスペクト表現により近接未来を表すことができる。それから、日本語では、予測や推測の未来であれば、モダリティを使う方が自然である。最後に、中国語と比べ、日本語は各未来表現の表す時間範囲(時間の切迫性)より、文中の未来は予測や推測の未来であるかどうかをより重視している。

〔キーワード〕 未来表現 近接未来 中期未来 遠い未来

1. はじめに

筆者は日本語教育の現場で、中国人学習者が日本語で未来のことについて語る時、「貴校に行けば、日本語能力が絶対よくなる。」のような不自然な文を産出しやすいことに気が付いた。日本語の場合は、今の時点で確定できない未来の出来事に対し、文末に推量のモダリティ「だろう」を使うのが自然であるが、学習者はなかなかこのような自然な文を産出できない。その理由は何であろうか。中国語と日本語の未来の表し方はどのように違っているのか。筆者は先行研究を調べてみたが、上の疑問に答えてくれるものが見当たらなかった。この疑問を定式化して言えば、未来表現における日中両言語の対応関係ということである。

そこで、本研究は、将来の時間を現在の時点に近い「近接未来」、現在の時点に近くもなく遠くもない「中期未来」と現在の時点から遠い「遠い未来」の三種類に分け、各々に該当する中国語表現がどのような日本語と対応するかについて検討する。

2. 「未来時制」とは

時制というのは、発話の時点、すなわち現在を基準にし、その文で表す事柄がそれより前か(過去)、後か(未来)を示す文法手段である。日本語のテンスは過去・現在・未来を表すのにル・タの対立、すなわち非過去・過去の対立しか持たないと言われている。未来は本質的には確定したものではないため、関係する概念として予定、推量、意識・希望などがある。この場合は、話者の推測や意志といった心的態度や気持ちを表す文法形式モダリティを使う。

例えば、日本語では、例文(1)(2)のように、「あした」「来年の夏」のような未来を表す時間副詞と

*：中国厦門大学嘉庚学院日本語学科

推量のモダリティ「だろう」が現在時制と共起できるので、現在時制によって、未来を表すのである。本稿はこのような未来時制を表す表現を未来表現とする。

- (1) 田中さんは明日中国に行く。
- (2) 太郎さんは来年の春結婚するだろう。

これに対して、中国語は文法形式としての時制を持たない言語とされている。時制という文法範疇を持たない中国語は別の手段によって「時」を表している。その中、未来表現に関しては、中国学界においても様々な言い方があるが、大きく分ければ例文(3)のような語彙と例文(4)のような文法の2種類の表現があるとされている。

- (3) 以后我们再研究这个问题。¹⁾
- (4) 让他着急去吧、我何必苦巴巴地又给自己找个爷。²⁾

3. 先行研究

3.1 中国語の未来表現に関する先行研究

張、石(2008)は、現代中国語の未来表現で表される時間範囲について論じた。具体的には未来表現として「要」「快」「就」「回头」「将来」という語彙が中国語にあると指摘し、図1を用いて各々の語彙とそれが表す未来の時間範囲を次のようにまとめている。



図 1

- (1) 「要」の表せる時間範囲は(X, Y)である。つまり現在の時点(現在を含む)から中期未来(中期未来の時点を含んでいない)までの時間範囲である。
- (2) 「快」「就」の表せる時間範囲は(X, Y)である。「快」「就」と「要」の違いは、「快」「就」は現在時点が表せないが、「要」は現在の時点を含む。
- (3) 「回头」の表せる時間範囲は(Y)である。つまり、「回头」は現時点から近くもなく遠くもない未来の時点が表せ、中期未来表現と見なすことができる。
- (4) 「将来」の表せる時間範囲は(Z)であり、通常遠い未来を表す。

本稿は、考察対象が張、石(2008)のと同じである。筆者が調べたかぎりでは、張、石(2008)のように「要」「快」「就」「回头」「将来」の表せる時間範囲について詳しく論じた論文がないため、本稿は張、石(2008)の以上の説をもとに、「要」「快」「就」を近接未来表現とし、「回头」を中期未来表現、「将来」を遠い未来表現とする。次の例を見よう。

- (5) 她埋下头、像是要落泪。(曹禺《日出》) (近接未来)
- (6) 我快出发、她才来。³⁾ (近接未来)
- (7) “我这就去买。”说完转身走了。⁴⁾ (近接未来)
- (8) 回头我找他谈谈、看是不是真的有这回事。(《王朔小说》) (中期未来)
- (9) 我一定要告诉他的、我将来并不一定跟她结婚。(曹禺《雷雨》) (遠い未来)

張、石(2008)は主に現代中国語の未来表現における語彙の部分について論述したが、文法については言及しなかった。これに対して、張(2014)は、語彙と文法に分け、さらに詳しく中国語の未来表現

について考察を行い、語彙としては最も多く使われたのは時間副詞と時間名詞であり、文法としては出現頻度が最も高いのは「去/来+VP」、「VP+去/来」と文末に来る「了」の三パターンであるとしている。また文法の形で未来時制を表現する時、様々な制限があると論述しているが、本稿では中国語の未来表現において最も多く使われている語彙の部分の考察の対象とする。

また、中国国内だけではなく、日本においても現代中国語の未来表現に関する研究が行われている。石井(2014:37)は、構造と時間の切迫性から中国語の未来表現「就要～了」と「快要～了」の特徴について論じ、両表現の特徴を次のようにまとめている。

「就要～了」はその構成要素である“就”の性質の影響を受けており、未来に起こる出来事に重きを置く実現性の強い未来表現である。また“就”の持つ実際の発生時間が予測よりも早いという含意から切迫性の強い未来表現である。一方、「快要～了」は構成要素の“快”の性質の影響を受けて、描写性の強い未来表現である。

3.2 日本語の未来表現に関する先行研究

一方で、日本語の未来表現を考察対象とする論文は多く見当たらない。鎌田(1999:35)は「日本語では未来の事態を表現するのに現在時制を用いる場合が多く、日本語では、文法形式としての時制には、過去時制と現在時制しか存在しない。」と述べている。また、鎌田(1999:38)は「現在時制が未来の事態を表すのは非状態動詞の場合である。非状態動詞の現在形が未来時を表す場合は、何か確定的な内容でなくてはならないことになる。確定的な内容ではない場合、「～(シ)ソウダ」「～(スル)ダロウ」「～(スル)ヨウダ」のような法的な表現(モダリティ)は近い未来の事態を述べることのできる表現形式である。」とも指摘した。

本稿は、3.1で触れていた張、石(2008)で論じた中国語の代表的な未来表現「要」「就」「快」「回头」「将来」を基に、これらの表現の使用条件を再確認した上、中日対訳コーパス⁵⁾を用いて、各表現はどのような日本語に対応しているのかを明らかにする。本稿は主に表1に示している作品から例文を抽出する。日本語の近接未来については、鎌田(1999)を参考にする。

表 1

作品名	作 家
活动变人形	王蒙
插队的故事	史铁生
金光大道	浩然
红高粱	莫言
关于女人	冰心
丹凤眼	陈建功
霜叶红似二月花	茅盾
青春之歌	杨沫
轮椅上的梦	张海迪

4. 中国語の近接未来表現「要」「快」「就」

張、石(2008)では、中国語では、「要」「就」「快」は三つとも現在の時点から中期将来の時点(中期将来の時点を含んでない)までの時が表せると述べている。「要」と「就」「快」の区別は、「要」は現在の時点のことを表せるが、「就」「快」は現時点のことを表すことができないと言われている。本節は、この三つの表現の各用法を詳しく見ていき、それぞれの用法にどのような日本語表現が対応可能なのかを確認する。

4.1 近接未来表現「要」

「要」は現代中国語における最も典型的な未来表現の一つであるが、「意志」「推理」「当然」などの意味も持っている。次の例を見よう。

- (10) 瞎子不顾一切地要收养这孩子…(後略)。(意志)(插队的故事)
- (10') 盲人は躊躇なくその子を引き取ることを申し出て…⁶⁾
- (11) 这种“革命”、比起鸦片烟来、当然要凶险一千倍。(推理)(活动变人形)
- (11') この「革命」とやはアヘンより千倍も危険な代物にちがいないのだ。
- (12) (前略)长大了要孝顺妈妈呀…(後略) (当為)(活动变人形)
- (12') (前略)大きくなったら親孝行してね…
- (13) 碧莲是十二分的看得下随随、比随随要心急得多…(後略) (推定)(插队的故事)
- (13') 碧蓮はすっかり随随が気に入りに、随随よりも気がせいて…

上述の例文に出た「要」はすべて未来表現の「要」ではなく、本論の考察対象としない。

張、石(2008)では、「未来の概念は「意図」と「予測」の二つの要素から成っているが、中心となるのは「予測」である。」と述べ、「この二つの要素の複合状況により、「要」を「単純未来表現」、「複合型未来表現」と「意図しか表せない意志助動詞」の三種類に分けられる」と書いている。本節は張、石(2008)の分類に従い近接未来表現「要」を考察する。

4.1.1 単純未来表現「要」

「要」は本来、主語の意図や意志を表す時に使うものであり、単純未来表現として機能する時、幾つかの使用条件が要求される⁷⁾。本節で各使用条件における「要」はどのような日本語に対応できるのかを明らかにする。

I 張、石(2008)は、「主語が人ではない時、特に主語が無情物である時、「要」に含まれている「意図」義が消され、単純未来表現になる」と述べている。

- (14) “小学校要开学哩。” (插队的故事)
- (14') 「小学校がもうすぐ始まるから」
- (15) 如今解放了、太平了、很快就要土改了…(後略)(金光大道)
- (15') もう解放されて、平穏無事な時代になってるし、土地改革も始まるところで、…
- (16) 从窗前飞过的鸟儿显得惊惶、雨快要来了。(活动变人形)
- (16') 外を飛んでいく鳥たちは、騒然として怖えきった様子だ。雨がやってくるのだ。

この時の「要」は日本語に訳された時、例(14)～(16)のように、基本的に「切迫性の強い時間副詞+現在時制」、動作が始まる直前であることを表すアスペクト表現「動詞辞書形+ところだ」に翻訳できる。また、今回集めた例文の中において、自然現象について描写する文が多い。この場合、例(17)のように、「動作・現象が実現する直前の状態」という意味を表す日本のアスペクト的複合形式「～う/ようとする」に訳されやすい。

- (17) 天确凿地要黑了。(红高粱)
- (17') 日は確かに暮れようとしていた。

II 張、石(2008)は、文の述語が非意志動詞である場合、動作が意志によってコントロールできないため、「要」に含まれている「意図」義も抑えられ、単純未来表現になるとしている。この場合の非意志動詞の多くはネガティブなニュアンスを持っている。

- (18) 在我偷看她的时候、有时她的眼光正和我的相值、出神的露着润白的牙齿向我一笑、我就要红起脸…(後略) (关于女人)
- (18') 先生に真っ白な歯をのぞかせて、うっとりするような微笑みをおくられると、もう顔が赤らみそうになってうつむいてしまう。
- (19) 他满手是汗、目眩头晕、几乎要栽倒。 (红高粱)
- (19') 手は汗にまみれ、目まいがしていまにも倒れそうだ。
- (20) “当家的、真要淹死啦！” (红高粱)
- (20') 「お頭、ほんとに溺れそうだよ！」

この場合の「要」は、例(18)～(20)のように、基本的に日本語の「動き・変化を起こす兆候」という意味を表す表現「動ます形+そうだ」に対応している。

Ⅲ張、石(2008)は、述語が受け身表現である場合、文中の行為は通常主語の意志によりコントロールできず、「要」に含まれている「意図」義が消され、単純未来表現になると述べている。これはⅡ類の文と性質が似ているが、述語の構造が異なっている。この条件で使われる「要」は、例(21)と(22)のように動詞受身形の現在時制に訳することができる。

- (21) “金涛这下子要受气了。” (插队的故事)
- (21') 「今回は金濤もいじめられるな」
- (22) 花脖子土匪当然不知道他面对着的危险、更不知道两年后、自己就要赤条条地被这个小伙子打死在墨水河里。 (红高粱)
- (22') 花脖子はむろん眼の前の危険に気づかなかったし、二年後に墨水河で、自分が素裸のままこの若造に撃ち殺されるとは知るよしもなかった。

Ⅳ張、石(2008)は、文の述語が「予測系」動詞である場合、その述語の目的語節に現れた「要」は単純未来の「要」であると述べた。「予測系」動詞の意味に影響され、「要」における「意図」義がなくなり、「予測」義だけが残るためである。

- (23) 他站在人群中看一会、目光和面容都极平静、仿佛早已料到要有上山下乡运动发生。(插队的故事)
- (23') その時老人は群衆の中に混じってしばらく眺めていたが、眼差しも表情もごく穏やかで、上山下乡運動の起こることを早くから予想していたかのようだ。
- (24) 父亲感到公路就要到了、他的眼前昏昏黄黄地晃动着路的影子。 (红高粱)
- (24') もうすぐ公路だ。父の目に道の影がぼんやりと揺れ動いた。

この使用条件を満たした「要」は基本的に例(23)のように、日本語の現在時制に訳することができる。また、石井(2014)にも述べているように、前の「就」の持つ実際の発生時間が予測よりも早いという含意の影響を受け、「切迫性の強い時間副詞+現在時制」というパターンに訳されることも可能である。

Ⅴ張、石(2008)は、「要」の前に既に将来を表す時間詞がある場合も、「要」は単純未来表現マーカ―として捉えられると指摘した。「要」と共起しやすい時間副詞は「将、就、快、正、刚、马上」などがある。また「明日」「来週」などのような時間名詞とも共起できる。この現象から、「要」が表せる将来の時間範囲が広く、共起する時間詞により、現在からの時間距離を表すと解釈できるだろう。

- (25) 舅母迟疑了一下、正要说话…(後略) (关于女人)
- (25') ためらったあと、叔母が何か言い出そうとした。

- (26) 刚要下笔、编辑先生忽然来了一封信、特烦我写“我的弟妇”。（关于女人）
 (26') 書こうとしたところへ、編集者の依頼状がとどいた。「私の弟の妻」という題で書いてくれ、という。
 (27) 每到她快要睡着的时候…(後略) （活动变人形）
 (27') ようやく眠りかけた時…
 (28) 在C女士将要毕业的一年、我同她演过一次戏。 （关于女人）
 (28') Cさんがまもなく卒業する年、私は彼女とともに校内劇に出演した。

例(25)～(27)のように、時間詞と共に起する「要」は基本的に「動作・現象が実現する直前の状態」という意味を表すアスペクト的複合形式「～う/ようとする」か「事態の初期の段階に入る」という意味を表すアスペクト表現「～かける」に翻訳できる。「要」は「～かける」に訳せるのは、張、石(2008:31)にも書いてあるように、「要」は未来の時間だけではなく、現在時点も表現できる」ためである。また、「要」は時間副詞「将」と共起する時、例(28)のように、「時間副詞＋現在時制」という形に訳された例もある。

Ⅵ張、石(2008)は、述語動詞の後ろに「了」が付けられる場合、客観的に動作や行為が起こることを表現でき、「要」の「意図」義が弱くなり、単純未来表現になると書いている。この時の「要」は、例(29)～(31)のように、基本的に「時間副詞＋現在時制」に訳せる。文脈により、時間副詞を省略する場合もある。

- (29) 电影放映队要来了。 （插队的故事）
 (29') 映画上映隊がもうすぐやって来る。
 (30) “大哥、告诉你一件事、我已经订了婚。不久要结婚了。… （关于女人）
 (30') 「兄さん、お知らせしたいことがあります。ぼくは婚約しました。まもなく結婚します。…
 (31) “大泉、我要离开这儿了。…(後略)” （金光大道）
 (31') 「大泉よ、わしはここを出るぞ。…」

Ⅶ最後に、張、石(2008:30)は、「客観的に状況について述べる時また第三者の立場から出来事について報告する時、文における主語の意志がなくなり、「要」は単純未来表現になる。」と述べている。この場合の「要」は例(32)～(34)のように、ほとんど直接動詞の現在時制に訳される。

- (32) 如今你一点动静都没有、二弟明夏又要出国、三弟四弟还小、我几时才做得上婆婆？
 （关于女人）
 (32') でも、結婚話もないようだし、二番目の弟が来年の夏外国へ行くし、三番目と四番目の弟は親がかりだし、私はいつになったらお姑さんになれるの。
 (33) 明天村长要到天门区公所参加一个十分重要的村干部联席会议。 （金光大道）
 (33') 明日は村長が天門区の役場へ出かける。非常に大事な各村幹部合同会議があるのだ。
 (34) 到要睡觉的时候、吕瑞芬抿嘴乐、高二林轻松愉快。 （金光大道）
 (34') 寝る時間頃には、呂瑞芬の口元は緩み、高二林は気分爽快になっていた。

4.1.2 複合未来表現「要」

4.1.1 に挙げた使用条件を満たした「要」は共起する要素の性質や意味、また文脈からの影響を受け、「要」に含まれている「意図」義が消されたため、単純未来表現として機能する。しかし、張、石(2008:30)は、「4.1.1 に挙げた使用条件を満たしていない場合、また語用環境が変わった場合、「要」の持っている「意図」義が残され、「予測」義と複合して機能し、複合未来表現になる。」と指

摘した。このような使い方がなされる「要」が非常に多い。複合未来表現「要」を使った文の主語の大多数は例(35)のような第一人称である。話し手が自分の予定や予期を他人に伝えるとき、自然に自分の主観的意図を同時に相手に伝わるのが避けられないためである。

- (35) 在这里、我要供招一件很可笑的事实、虽然在当时并不可笑。(关于女人)
- (35') さてここでちょっと、おかしな実話を披露しておきたい。
- (36) 他说他要翻译一批外国哲学家的著作、他要“卖文为生”。静宜很赞成。(插队的故事)
- (36') 外国の哲学書を何冊か翻訳して、生活費を稼ぐつもりだというのも妻はもちろん賛成である。
- (37) 走、走、屋里坐会儿、我要跟你讨论一下大问题！(金光大道)
- (37') まあ、はいつて、家の中でゆっくりしていけや。おめえと大問題を話してえんだ。

複合未来表現「要」に「意図」義が残されているため、基本的に例(35)～(37)のように、日本語の話者の意志を表す表現「～たい」、「～つもり」のような表現に訳せる。つまり、単純未来表現「要」と複合未来表現の「要」の訳し方と一定の差がある。

4.1.3 意図しか表せない意志助動詞「要」

張、石(2008:40)では、「「要」が単純に意志や意図を表す場合、未来表現と見なすべきではない。」と述べている。未来表現の最も中心的な用法は未来に起こることに対する予測というものであり、単純な意図は未来の事件に対する予測ではなく、事件が確実に起こるかどうかにも関心がないためである。「要」の非未来表現用法は一般的主語が意志を持っている人で、述語が主語によりコントロールできない行為や事である時のような文脈に出現する。この場合の「要」はよく「偏」、「硬」のような主語の意志を強める副詞と共起する。

- (38) 爷爷说：“我要见当家的。”(红高粱)
- (38') 祖父は言った。「お頭に会わせてくれ」
- (39) “打窑时塌死的。她硬要进去掏土、窑塌了……”(金光大道)
- (39') 「窯洞を掘るとき土が崩れてね。彼女が無理に掘り進もうとして土が崩れたの……」
- (40) “你那脑瓜子本来就是软的、偏偏要往硬的上碰、这怨谁呢？”(金光大道)
- (40') 「あんたの頭はもともとからやわらかいのに、自分から固いものにぶつけようとしてんでしょ。なんで人のせいにすんのよ」

例(39)の「要見」は祖父の個人の願いであり、実際にお頭に会えるかどうかは祖父の意志で決められないため、予測できない未来の出来事になる。従って、例(39)の「要」は未来表現ではなく、意図を表す意志助動詞である。例(39)～(40)の日本語訳からも分るように、意志助動詞「要」は日本語の命令形、意志形のような主語の意志を強く表せる表現に対応できる。

4.2 近接未来表現「快」

張、石(2008:32)は、「副詞「快」は主に未来事件の起こる時間が現在に近いことを表すときに使い、単純な予測である。」と述べている。未来表現の「要」と入れ替えられる場合もあり、意味は変わらない。

- (41) 太阳快落山的时候、金涛说：“嘿、犯什么傻呢、赶紧再摸一回吧。”(插队的故事)
- (41') 日がまもなく落ちようとする頃、金涛が「おい、何をぼんやりしているんだ。急いでもう一回捕ろうぜ」と言った。
- (42) 灯碗里的油快干了。(金光大道)
- (42') 燈盞の油はもうなくなろうとしていた。
- (43) “哪个在吹笛子？吹得这样好？”周氏用赞美的声音问琴道、这时《梅花三弄》快完了。

(家)

(43) 「誰が吹いてるの？うまいわね」周氏が感嘆して琴さんに聞いたとき、「梅花三弄」はもう終わろうとしていた。

例(41)～(43)のように、近接未来表現「快」は基本的に「時間の切迫性を表す副詞＋～う/ようにする」に対応しており、動作や事が始まる直前の状態を表す。また、「快」には以下の二つの用法があり、未来表現の「快」と同じ未来の状況について描写しているが、将来時制ではない。この場合の「快」の日本語訳文も未来表現の「快」と違っている。

①ある状況や数量に接近しているのを表す時

(44) 小老弟、你还小哇。我都快三十岁了。 (金光大道)

(44') 坊主、おめえはまだ小せえ。おれはもうすぐ三十だ。

(45) 她生火老舍不得搁劈柴。没有斧子、用一把掉了木把也缺了钢刃的旧菜刀把劈柴劈得很细、快成了筷子了、她以为这样就可以省一点劈柴。 (活动变人形)

(45') 火をおこすにも焚木をケチってしまう。斧がなくて、柄ぬけ歯欠けのオンボロ包丁で、焚木を箸のように細く裂くのは少しでも節約せねばとの心掛けである。

②動さの速さを表す時

(46) 对啦、我们赶快找大泉去、让他多搜集一点儿。 (金光大道)

(46') そうだ、こうしちゃいられねえんだっけ、早く大泉をつかまえて、もっといい話をさがさなきゃ。

(47) 翻译说：“快点动手！” (红高粱)

(47') 通訳が言った。「はやくやれ！」

4.3 近接未来表現「就」

「就」については、張、石(2008:33)では、次のように述べている。

「就」は実は単独で出現する未来表現マーカーではなく、主にある動作が、前の動作が終わり次第起こることを表す。文中に他の時間詞がない場合、無標の時間位置は現在であるため、「就」が表すのは現在の事態に続いて次の動作が即時に起こることである。「就」の未来表現としての用法はここから発展してきたのである。

近接未来表現「就」は日本語に訳された時、基本的に例(48)～(50)のように、直接現在時制に訳せる。

(48) 好像他们都去赶集了、买几筒罐头、吃罢就回来。 (插队的故事)

(48') みんな市へ出かけて缶詰をいくつか買い、食べ終わってから帰ってくるようでもある。

(49) “真的、下个月就该走了、再摸一回吧。” (插队的故事)

(49') 「そうだ。来月には出発しなきゃならないんだ。もう一回やろう」

(50) “你好哇！……一会儿就知道啦！” (丹凤眼)

(50') 「いや、あんたはいい男だよ……とにかくもう少しすれば分かるよ」

5. 中国語の中期未来表現「回头」

「回头」は時間名詞であり、現代中国語の話し言葉における使用頻度が高い未来表現標識の一つである。張、石(2008)では、「回头」は独特な機能を持っており、遠くもなく、近くもない時点が表せ、中期未来表現と見なすことができるとされている。特別な文脈を除き、「回头」は通常他の未来表現マーカーと入れ替えられない。

- (51) 高大泉想了想说：“那你就先休息一会儿，我去找村长商量商量；怎么改、回头我再告诉你。”
（金光大道）
- (51') 「それじゃひと休みして下さい。ちょっと村長と相談してきますから。どう変えるかあとでもう一度お伝えします」
- (52) “德新、你真是过虑；地皮呢、头可以再买呵！”（霜叶红似二月花）
- (52') 「德新、苦劳性な男だな君も。地所なんか、あとで買えばいいじゃないか」
- (53) “老增大伯、这是为什么？我父亲脾气不好、您别见怪。要是缺了吃的、回头我叫做活的给您送上二斗。”（青春之歌）
- (53') 「老増おじさん、どうしてこんなまねを？うちのおやじは気が短かくて……悪く思わんでくれ。食べるものがないなら、あとで作男に一斗ばかりもたせてよこすよ」
- 例(51)～(53)に示されているように、中期未来表現「回头」は基本的に日本語の「あとで」と対応している。また、先行研究で言及していない「回头」の未来完了の用法は今回の集めた例文の中にあった。未来完了の「回头」は例(54)～(55)のように、確定条件を表す「～たら」に訳された。
- (54) “天不早了、咱们都睡觉吧。回头卫兵听见又该麻烦了。”（青春之歌）
- (54') 「もうおそいから寝ましょう。衛兵に聞かれたら、またうるさいわ」
- (55) “回头见着小梅子非跟她算帐不可！”她一边走一边嘟哝着。（青春之歌）
- (55') 「あとで梅霜に会ったら、この仕返しをしてやらなくちゃね」彼女は歩きながら、ぶつぶつぼやいていた。

6. 中国語の遠い未来を表す「将来」

張、石(2008)では、「将来」は遠い未来を表す表現とされている。時間名詞「将来」は意味が非常に単純であり、将来の時間概念だけを表している。

- (56) 徐、金二人全力说服张富贵、把学校的成绩册拿来给他看、说怀月聪明得危险、又肯下力气学、各科学成绩都是全校第一、将来肯定能考上初中、高中、说不定能上大学。（插队的故事）
- (56') 学校の成績簿を見せて、懷月兄は非常に頭がよくて勉強家で、どの科目も全校で一番の成績をあげており、将来きっと中学や高校に受かるだろうし、大学も夢ではないと説明した。
- (57) 同学们、咱们将来都会生活在一个非常非常幸福的社会里、好像现在的苏联一样。（活动变人形）
- (57') みなさん、将来私たちは、とてもとても幸福な社会で、暮らすようになるでしょう。
- (58) 你只要好好做事、将来一定有出头的日子。（青春之歌）
- (58') まあ一生懸命やりなさい。将来またいいことがあるかも知れない。

遠い未来を表す「将来」は基本的に日本語の「将来」と対応できるが、日本語では例(56)～(58)のような確定の未来ではない場合、「将来」だけではなく、文末に断定を避ける法的表現「～だろう」や可能性を表す表現「～かもしれない」と一緒に使う方が自然である。例(59)と(60)のような確定の未来である場合、時間標識「将来」を省略し、日本語の確定条件従属節「～たら」に対応できる。それから、今回の調査で例(61)のように「将来」を「あとで」に訳した例文もいくつかある。

- (59) 将来我长大了、要当一个出色的作曲家。（轮椅上的梦）
- (59') あたしは大きくなったら立派な作曲家になる。
- (60) 将来老死时就埋在原野宽阔的胸怀里、好时常听到嘹亮的马嘶。（轮椅上的梦）
- (60') 歳をとって死んだら、この原野に埋めてもらおう。
- (61) 他不看大伙、也没看马队长、只是摇摇头说：“眼下搞基础、不打牢靠、将来库房盖起来就不结实。…(後略)”（金光大道）
- (61') かれはみんなや馬隊長の方には見向きもせず、首をふった。「この基礎固めをしっかりとって

おかねえと、あとで倉庫を建てるとき、あぶねえ、…」

7. まとめと今後の課題

これまで、中国語の未来表現の「要」「快」「就」「回头」「将来」について、日本語表現との対応関係を見てきた。その結果を表 2 に整理し、「要」「快」「就」「回头」「将来」に対応する日本語表現を①～⑧にまとめた。

表 2 中国語の未来表現とそれに対応する日本語表現

近接未来	要	① (時間副詞)+現在時制 ② アスペクト表現(「～ところ」、「～う/ようとする」、「～かける」) ③ モダリティ「～(し)そうだ」 ④ 話者の気持ちを表す表現「～たい」、「～つもり」
	快	② アスペクト表現「～う/ようとする」
	就	① 現在時制
中期未来	回头	⑤ 「あとで+現在時制」 ⑥ 確定条件「～たら」
遠い未来	将来	⑤ 「あとで+現在時制」 ⑥ 確定条件「～たら」 ⑦ 「将来+現在時制」 ⑧ モダリティ(「～だろう、～かもしれない」)

表 2 に示されているように、中国語は語彙の形で未来のことを表せるが、日本語は基本的に文法の形で未来時制を表す。また、日本語は中国語と同じ、時間副詞の使用により近接未来と中期未来、遠い未来を区別することができる。それから、表 1 から、日本語の未来の表し方は以下の三点においても中国語のそれと異なっていることも分かった。まず、日本語はアスペクト表現により近接未来を表すことができるが、中国語においてはこのような用法がない。次に、中国語は同じ時間標識により予測や推測の未来と確定の未来を表すことができるのに対し、日本語は予測や推測の未来であれば、モダリティを使う方が自然である。最後に、中国語では近接未来、中期未来と遠い未来の三つの概念がはっきり区別されており、各概念に対応する時間標識もそれぞれであるが、日本語ではこの三つの概念の区別が曖昧である。例えば、表 1 に示しているように、今回の調査で日本語のモダリティは中国語の近接未来表現「要」と遠い未来を表す「将来」と同時に対応でき、「あとで」と確定条件の「～たら」は同時に中国語の中期未来「回头」と遠い未来を表す「将来」と対応できる。つまり、中国語と比べ、日本語は各未来表現の表せる時間範疇(時間の切迫性)より、文中の未来は予測や推測の未来であるかどうかをより重視していると言えよう。

本稿は中国語から日本語への一方向から見た両言語の対応関係を捉えたものである。日本語から中国語への方向からの対応関係を今後の課題としたい。

注

- 1) 张莉(2014)「現代汉语将来时制的表现手段」(『上饶師範学院学報』第 1 期)から抽出した例文である。
- 2) 张莉(2014)「現代汉语将来时制的表现手段」(『上饶師範学院学報』第 1 期)から抽出した例文である。
- 3) 张万禾、石毓智(2008)「現代汉语的将来时范畴」(『漢語學習』第 5 期)から抽出した例文である。
- 4) 张万禾、石毓智(2008)「現代汉语的将来时范畴」(『漢語學習』第 5 期)から抽出した例文である。
- 5) 北京日本学研究所(2003)『中日対訳コーパス』第 1 版
- 6) 本論文に使った例文の訳文は、すべてコーパスから抽出したものである。

7) 張万禾、石毓智(2008)「現代漢語的將來時範疇」(『漢語學習』第5期)にまとめた使用条件を参考にした。

参考文献

1. 木村英樹(1982)「テンス・アスペクト：中国語」(『講座日本語学 11：外国語との対照Ⅱ』明治書院)
2. 鎌田精三郎(1999)「現代日本語の未完了アスペクトと未来表現」(『城西人文研究』25巻第1号、城西大学経済学会)
3. 張万禾、石毓智(2008)「現代漢語的將來時範疇」(『漢語學習』第5期)
4. 張莉(2014)「現代漢語將來時制的表現手段」(『上饒師範學院學報』第1期)
5. 石井友美(2014)「未来表現“就要～了”“快要～了”について」(『お茶の水女子大学中国文学会報』第22号)
6. 北京日本学研究中心(2003)『中日対訳コーパス』第1版

Future Tense Presented in Chinese and Japanese — Research on “Yao” “Kuai” “Jiu” “Hui tou” “Jiang lai” —

LIN, Xiao

“Tense” is an important grammatical category of human language, which is presented variously in different languages. Future tense is expressed by other means since there’s no grammatical tense in Chinese. By exploring the usage of “Yao”, “Kuai”, “Jiu”, “Hui tou”, “Jiang lai” in Chinese, this study aims to find out the corresponding expressions in Japanese. By comparing Chinese and Japanese expression of future tense, the study reveals that despite of some similarities, there are three differential points between them. First, in Japanese, the usage of aspect can describe the near future, whereas it is incorrect in Chinese. Second, in Japanese, if one thing is just a prediction, then, a modality is needed at the end of the sentence. Third, when using the future tense, Chinese puts more emphasis on the differences shown by different kinds of future tenses in the time domain. By contrast, Japanese emphasizes the possibility that things may happen.